

タイトル：「OICのアイデンティティ、その1—超教派、福音主義、プロテスタント教会」

鍵となる聖句：使徒 2:41-42「そこで、彼のことばを受け入れた者は、バプテスマを受けた。その日、三千人ほどが弟子に加えられた。⁴²そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。」

皆さん、お早うございます。また皆さんにお会いできてうれしいです。今日から、私は、大いに熱望していた計画を始めます。数年前から気になっていたトピックについて、3回にわたる説教シリーズを始めます：このシリーズのテーマは、教派を超えた福音主義のプロテスタント教会としての大阪インターナショナルチャーチのアイデンティティです。私はこれまでずっと、自分の周りのキリスト教の風景を見てきました。そして、実にさまざまな教派の教会が、聖書が語る本質的な教義や教会生活の実践について、それぞれが異なる側面を強調しているのを見てきました。これらの異なる教会は、空間的に存在するだけでなく、時間的にも存在しています。つまりそれらは、それぞれ、何世紀にもわたって築き上げられた特別な遺産を受け継いでいるので。私たちの教会は50年の歴史しかありませんが、大阪インターナショナルチャーチもまた、数百年の歴史を持つ特別な遺産の一部なのです。この3つの説教では、私たちの遺産のさまざまな側面を皆さんと一緒に探っていきたいと思います。私たちはプロテスタントであり、福音主義であり、超教派です。私たちはインターナショナルでもあり、それも私たちのアイデンティティの重要な部分なのですが、今日の説教のタイトルにその言葉を加えたくなかったのです。そうするとタイトルが長くなりすぎるからです。確かに、私たちはさまざまな宗派から集まっているだけでなく、さまざまな国から集まっています。

続ける前に、多くの聖書注解者が、教会生活とは何かについて、いくつかの重要な側面を教えている重要な聖句を引用したと思います。使徒の働き2章では、ペンテコステの日についてこう書かれています。その時、聖霊が百人以上のクリスチャンの弟子たちの上に劇的に降り注ぎ、使徒ペテロが彼の有名なペンテコステの説教を行い、エルサレムにいる多くの人々が福音を受け入れました。

使徒 2:41-42 を読みましょう：「そこで、彼のことばを受け入れた者は、バプテスマを受けた。その日、三千人ほどが弟子に加えられた。⁴²そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。」

その日、新たに改宗した3,000人が洗礼を受け、キリスト教の弟子となりました。そして42節では、教会生活に不可欠なものをいくつか挙げています。その1：教え – 彼らは使徒たちの教えに専念しました。使徒たちが教えた教義、すなわちイエス・キリストの福音、すなわちイエス・キリストの生涯、死、復活、教え、私たちに代わって罪を贖ってくださった犠牲についての教えの上に堅固な土台を据えることはとても重要なことです。その

2: 交わり - また、教会生活において重要なのは、キリストにある私たちの兄弟姉妹である信仰者仲間と共同体の中で共に集うことです。その3: パンを裂くこと - これはおそらく、聖餐式とも呼ばれる「主の晩餐」として知られている儀式のことを指しているのでしょう。しかし、それはまた、「アガペーの食事」として知られるものを指しているのでしょう。（アガペーは、ギリシャ語で「愛」を意味します。） - これは、主要な集まりの後に分かち合う食事、あるいは、夕方に再集合して一緒に食事をしたりするものでした。その4: 祈り - 彼らは祈りに専念しました。祈りは重要です。 - 不可欠なもの。それはユダヤの神殿における礼拝の重要な一部でしたし、今日の教会にとっても重要であり続けています。私たちの主は、私たちが主に向かって祈り、主を賛美し、主の備えを求め、個人的にも団体的にも主に感謝することを望んでおられます。

今日から3回シリーズで、毎月1回、1月、2月、3月の第4日曜日に説教をします。以下は、私の3つのメッセージのタイトルとテーマです：

説教1：「OICのアイデンティティ-超教派、福音主義、プロテスタントの教会」私たちの教会憲法の信仰声明は、典型的なプロテスタント、福音派の信仰声明です。使徒の働き2章42節を引用すると、初代クリスチャンはまず使徒たちの教理に献身したとあります。このシリーズの最初の説教は、大阪インターナショナルチャーチの主要な教義的土台に焦点を当てます。

説教2：「OICのアイデンティティ-私たちの目的声明」私たちの教会の定款には、教会の目的についての声明があります。私はこの表現がとても好きで、教会共同体で共に生きるためのいくつかの要点に触れており、そのいくつかは私のテーマ聖句である使徒の働き2:42に反映されています。私たちに「目的」があることをご存知でしたか？詳しくは来月の説教で、皆さんに、それについてお話しします。

説教3：「OICのアイデンティティ-洗礼と主の晩餐（聖餐）の儀式」この二つの儀式は、キリスト教会を象徴する不可欠な儀式であり、私たちの会則の目的声明にも大きく取り上げられています。この2つの重要な儀式について、1つのメッセージを取り上げたいと思います。

今日は、OICのアイデンティティに関するシリーズの第1回目の説教を行います：私たちは超教派の福音主義プロテスタント教会です。OIC憲法前文の前半を読みましょう：「序文：大阪地区居住の英語を話すプロテスタントのクリスチャングループが、イエス・キリストに従う者たちが、共に励まし合い、公に礼拝を持ち、積極的に奉仕するために一つとなり交わることが、神の御旨であると信じ、一致団結して、大阪インターナショナルチャーチを設立するに至り、…」様々な背景を持つ英語圏のクリスチャンが集まり、この教会が設立されました。設立時の牧師はバプテストでした。憲法を書いたのは長老派で、淀川キリスト教病院のチャプレンでした。初期のころは、カリスマ派や非カリスマ派、メソジスト派やルター派など、さまざまな教派のクリスチャンがいました。実にさまざまでした。しかし、皆を結びつけたのは、福音派とプロテスタントの伝統を共有していることでした。1990年代にこの教会に来たとき、私が気に入ったのは、さまざまな教派のク

リスチャンを広く受け入れるクリスチャン・ファミリーがここにあったことでした。しかし、神学的にはリベラルではなく、福音主義的な教義の土台にしっかりと立っています。

ここで、私が OIC を説明するために使ってきた 3 つの用語について、「プロテスタント」という言葉から説明を始めたいと思います。

パート 1: プロテスタント宗教改革

私たちの教会憲法の 2 か所に、「プロテスタント」という言葉が出てきます：先ほどお読みした前文と、この教会の牧師は「按手を受けたプロテスタントの聖職者」でなければならないとする牧師の項です。では、プロテスタント教会とはどういう意味なのでしょう。それは、ローマ・カトリック教会や、はるか東方にある同様の教会とは一線を画していることを意味します。16 世紀のヨーロッパにおける歴史とプロテスタント宗教改革の
について見てみよう。

マルティン・ルターの名前を聞いたことがある人は多いと思います。彼よりも前に他の人々がその道を用意していたのですが、彼は、プロテスタント宗教改革を起こしたとされるキリスト教修道士です。中世の西ヨーロッパの教会では、聖書には書かれていない多くの疑わしい慣習が生まれ、教会も同様に、健全な聖書の教えから逸脱していると思われるいくつかの教義を発展させてきました。加えて、ヨーロッパの教会の権力はローマの司教の手に一元化され、西ヨーロッパの大部分ではラテン語によるローマ式の礼拝が強制されていました。

献身と奉仕の生活を求める若者たちは修道院に入り、貞潔と清貧の誓いを立てました。そのような人物の一人がマルティン・ルターであり、キリスト教の修道士に期待されていた自己鍛錬と自己否定のさまざまな訓練に熱心に取り組んだ、真面目な心の持ち主でした。肉の罪深い欲望を否定するために、自分自身を鞭打つことさえありました。しかし彼は、こうした人為的な習慣は、これらの罪を克服するためには何の役にも立たないと悟るようになりました。彼は鋭い知性を持っていたため、新しいヴィッテンベルク大学に派遣され、そこで教授となり、そしてローマ書についての説教を準備している時に、彼は、神の前に正しい立場に立つ道は、人間が作り出した宗教の自己否定的な実践ではなく、神とイエス・キリストの福音を信じる単純な信仰によるものだということを、次第に理解するようになりました。彼はこの発見を信仰の誕生日と呼びました。

ルターはその答えをローマ人への手紙 1 章 17 節に見出しました。：「なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によって生きる。」と書いてあるとおりです。」私たちは信仰によって生きます。神が私たちに与えてくださる義は、信仰によってもたらされるのであって、制度化された教会によって義務付けられたさまざまな宗教的実践によってもたらされるのではないのです。ただ単純な信仰によります。この考え方は、マルティン・ルターにとって解放的な考えであり、宗教的実践の努力が及ばないのではないかという恐れや、神の好意を得られな

いのではないかという恐れから彼を解放しました。それは神に気に入られるための道ではありません。神が私たちに与えてくださる義は、行いによらず、信仰によってもたらされます。これは、プロテスタント運動をローマ・カトリック教会と区別する重要な教義です。しかし、16世紀にプロテスタントが抗議を行った後、ローマ教会はいくつかの問題のある慣習を修正しましたが、プロテスタントとカトリックの間にはまだいくつかの重大な教義の違いがあることをお伝えしておかなければなりません。

先ほど指摘したように、ルターはローマ人への手紙1章17節にある「神から与えられる義は、行いによらず信仰によって与えられる」という教えを知ったとき、解放された気持ちになった。ローマ書の他の箇所でも、この重要な真理が強調されています。ローマ3:28:「人が義と認められるのは、律法の行ないによるのではなく、信仰によるというのが、私たちの考えです。」これが信仰のみによる義認の教義であり、プロテスタントの改革者たちが強調した基本的な教えです。

ローマ10:9-10を読みましょう:「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。¹⁰人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」

私たちは信仰のみによって救われます。これが、ラテン語のソラ・フィデ、すなわち「信仰のみによって」という言葉で知られる宗教改革の原則です。

宗教改革にはもう一つの原則があります: ソラ・グラティア - 「恵みによってのみ」。私たちは神の無償の恵みによってのみ救われるのであって、神の恩恵にあずかろうと私たちが何かをすることによって救われるものではありません。プロテスタントは、私たちは信仰のみによって恵みのみによって救われると言います。

エペソ2:4-5:「しかし、あわれみ豊かな神は、私たちが愛してくださったその大きな愛のゆえに、5罪過の中に死んでいたこの私たちがキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです。」

8-10節:「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。⁹行ないによるものではありません。だれも誇ることのないためです。¹⁰私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。」

8節: 信仰を通して恵みによる救い ... そして私たち自身の行いによりません。9節:それは行いを通してではありません。10節は、私たちに行いについて語っています。:それは神の作品だと言います。私たちは私たち自身を造りませんでした、私たちは、私たち自身を救いませんでした。主は私たちが救ってくださる方であり、私たちが形造ってくださる方でもあります。何のためでしょうか? 良い行いをするためです。良い行いは、救いの

後にきます－これが神の設計です。主は、私たちがこれらの良い行いに歩むことを望んでおられます。良い行いはクリスチャンのライフスタイルの一部ではありますが、私たちが救われる手段ではありません。これが、プロテスタント改革者たちが強調した重要なポイントです。

これらは宗教改革の2つの重要な原則である：「ソラ・フィデ」と「ソラ・グラティア」です。もう一つ、非常に重要な原則があります。：ソラ・スクリプトゥラ－「聖書のみによる」私たちが教義を導き出し、クリスチャンとしての生き方を学ぶのは、何よりもまず聖書によるのです。－私たちの教義と実践のすべてにおいて、聖書が最終的な権威です。この原則によって、プロテスタントはローマ・カトリック教会が追加した教義や実践のうち、聖書に明確に明記されていないものや義務付けられていないものを拒絶しました。

ソラ・スクリプトゥラ、ソラ・フィデ、ソラ・グラティア。これらは、プロテスタント改革者たちがローマ・カトリック教会と自らを区別した3大原則であり、私たち OIC が受け継いできた遺産でもあります。しかし、改革派は教会の伝統のすべてを否定したわけではありません。聖アウグスティヌスなど、さまざまな教父の教えを、聖書に書かれていることと一致する限り、守り通したのです。そして改革者たちは、ニケア信条のような古代のキリスト教信条を堅持しました。なぜなら、これらの信条は聖書に由来する重要な教義を概説しているからです。私はソラ・スクリプトゥラの原則を堅持していますが、クリスチャン生活の早い段階で、先祖たちの働きに感謝し、ニケア信条をはじめとする古代の信条やプロテスタント宗教改革の原則を受け入れることも学びました。

先に進む前に、キリスト教を名乗るが、私たちが真のキリスト教徒とはまったく考えていないいくつかのグループについて触れておきましょう。エホバの証人、モルモン教、統一教会などです。これらの教会は、正統なキリスト教の教義と実践から大きく逸脱しています。日本のいくつかの本物の教会では、人々に配る資料やウェブサイトに、今挙げた3つのグループとは関係がないことを明記する必要性を感じています。

さて、ここで OIC のアイデンティティの別の側面に移りたいと思います.....。

パート 2：私たちは福音主義の教会です。

マルティン・ルターが宗教改革を始めた当初、彼らの教会は福音的教会と呼ばれていました。それは、彼らが真の福音のメッセージを再発見したと信じていたからです。「福音的」という言葉は、ギリシャ語の *euangelion* に由来し、「良い知らせ」（福音）、つまりイエス・キリストを通して提供される永遠の救いのメッセージを意味します。最近では、この「福音主義」という言葉は、聖書の権威、歴史的なキリスト教の教義、伝道と個人的な回心の重要性に重きを置く教会を表す言葉として使われている。

大阪インターナショナルチャーチの信仰声明は、私たちが福音主義神学を堅持するこの伝統の中にあることを示しています。OIC 信仰声明の 10 カ条のうち 4 カ条を読みたいと思います。

- 私たちは、旧約、新約聖書の両方が、原文に誤りのない、神の靈感による神の言葉であり、人類の救いという神の御心の完全なる啓示であり、すべてのキリスト者の信仰とその人生に対して、神聖かつ最高権威を持つものである、と信じる。テモテへの手紙二 3:16。
- すべての創造主であり、とこしえに完全で、永遠に三位一体（父なる神、御子、聖霊）である、唯一の神を信じる。ペトロの手紙一 1:2。
- イエス・キリストが、聖霊により宿り、処女マリアからお生まれになった、まことの神であり、まことの人となられた方であると信じる。また、聖書の御言葉どおり、この方は、私たちの罪のために、完全かつ成し遂げられたささげものとして、十字架上で亡くなられ、さらには、死からよみがえり、天へ昇り、大能者の御座の右に着座され、今、私たちの大祭司、あがない主であると信じる。ルカによる福音書 1:34-35、テモテへの手紙一 2:5、ヘブライ人への手紙 8:1-2。
- イエス・キリストの流された御血とその復活だけが、信じる者すべての義と救いの原点となり、信仰によりイエス・キリストを受け入れた者だけが、聖霊によって生まれ変わり、神の子どもとなりうる、と信じる。ローマの信徒への手紙 3:25-26、エフェソの信徒への手紙 2:8-9。

ここでは、正統派キリスト教福音主義神学の本質的な教義をいくつか紹介しましょう: 第一に、すべての教義と実践における聖書の権威.....第二に、三位一体（父、子、聖霊）とイエス・キリストの神性を信じること。... また、私たちの罪の贖罪としての十字架上のキリストの犠牲...そして信仰によってキリストを受け入れることの重要性です。私たちの信仰声明にあるこれらの教義についてもっと知りたい方は、教会のウェブサイトで、私が行った信仰声明の 10 箇条を概説した一連の説教をご覧ください。

福音主義を研究しているデビッド・ベビントンというイギリスの学者がいますが、彼は福音主義運動の 4 つの特徴を定義しています。私が神学校で履修した教会史の講義では、この 4 つの特徴を次のように概説しています。

1. 第一に、福音主義者は聖書の権威と充足性を信じている。これは 聖書主義
2. 第二に、福音派はイエス・キリストの十字架による救いの独自性を信じている。 - 十字架中心主義
3. 福音派はまた、個人的な改宗が重要な要素であると信じている。
4. 最後に、ほとんどの福音主義における 4 つ目の重要な要素は、伝道と宣教に対する切迫感である。この活動をする人々のメンタリティは、時代を超えてクリスチャンを特徴づけてきた。

[Source: Frank A. James III, *CHI02 Introducing Church History II: Reformation to Postmodernism*, Logos Mobile Education (Bellingham, WA: Lexham Press, 2016). Segment 52.]

私が OIC の信仰声明から引用したいくつかの声明が、現代の福音主義運動の特徴であると言われていることがおわかりいただけるでしょう。

福音主義運動の第一の特徴は聖書主義、すなわち聖書がすべての信仰と実践にとって最高かつ最終的な権威であるという信念です。ここで重要な聖句はテモテへの手紙第二 3:16-17 (NASB) です：「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。¹⁷それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。」

ベビントン博士が強調する第二の特徴は、十字架中心主義、つまりイエス・キリストが私たちの罪のための贖いのいけにえとして死なれた場所であるキリストの十字架の中心性である。コリントの信徒への手紙第一 15 章で、使徒パウロはキリスト教の基本的なメッセージについて述べています。3 節と 4 節はこのことを言っています：「私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、⁴また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと」キリストは私たちの罪のために死なれ、葬られ、3 日後に死者の中からよみがえられました。これは 2,000 年前の時空で起こったことであり、私たち福音主義者は、これらが現実の歴史的出来事であると断言します。

そして私たちは、キリストが十字架上で捧げた犠牲は、私たちの罪の罰を償うための贖罪の犠牲であったと言います。ローマ 3:25a：「神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として、公にお示しになりました。」

これが、私たちに代わってキリストが行った主な御業です：私たちの罪の罰を償い、私たちが創造主との正しい関係に戻して下さるために。私たちはこれを、私たちに代わって贖罪の業と呼びます。贖罪。この言葉をよく見てください。「AT」…「ONE」…ment。互いに「一つになる」こと。かつて敵同士だった 2 人（神と私たち）が和解するとき、2 人は「1 つになる」ことができます。これが贖罪の本質です。私たちを神から隔てていた障壁が取り除かれたのだ。そして障壁が私たちに罪でした。

それが福音主義の第二の特徴です：キリストの十字架は、私たちの創造主との関係を回復するために、私たちの罪のための贖罪のいけにえとして捧げられました。第三の特徴は、個人的な回心です。キリストに従うことを決断するのは、人それぞれです。回心のプロセスは、人それぞれ異なります。ある人は長い時間をかけて決心し、ある人は短時間で決心します。通常、私たちは罪に対する後悔と、悔い改めと信仰をもって神に立ち返ることを期待しますが、その現れ方は人によって異なります。

ローマ 10:9 – 「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。」

使徒 2:38 – 「そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。」

福音主義の第四の特徴は、伝道と宣教に対する切迫感です。「福音的」という名前そのものが、福音主義、福音のメッセージの宣教、悔い改めとキリストへの信仰への呼びかけに対する私たちの関心を意味しています。このことは、イエス・キリストがマタイの福音書 28 章 18 節から 20 節で従う者たちに次のように命じた大宣教命令で強調されています。：「イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。¹⁹それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、**20** また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

日曜日の週報に掲載されている OIC の「ビジョン・ステートメント」を引用したいと思います。これが私たちの教会のビジョンです：

「イエス・キリストの生涯と愛を、文化の多様性の中で一致して示し、関西地域に滞在する外国人と日本人がキリストの救いと成長の信仰に引き寄せられるようにするために。」

関西に住む外国人や日本人が、キリストを信じる信仰に引き込まれ、成長できるように：これが私たちの教会の使命です。これは、すべての地域教会の使命です。近隣や職場の人々に手を差し伸べ、福音のメッセージに触れることです。ノンクリスチャンに福音を伝えること。同胞であるクリスチャンが神に近づき、信仰を深めていくように励ますこと。家族や友人、仕事仲間や同僚の人生に福音のメッセージを伝えること。彼らを教会の交わりに招き、イエス・キリストとの関係に招き、クリスチャンの弟子として霊的に成長させること。

さて、今日のメッセージのパート 3 に移りましょう。

パート 3：私たちは超教派の教会です

さまざまな宗派の歴史をもう少しお話ししますので、お付き合いください。私はキリスト教の神学校で修士課程を修了したばかりですが、教会史のコースで学んだ興味深いことのひとつは、プロテスタント時代の初期の数十年間、さまざまなプロテスタントグループが、罪、救い、再生、義認、聖化、さらには宿命や自由意志といった聖書の重要なトピックに正確な定義を与えるために、詳細な教義声明を作成し始めたということでした。これらのグループは、ローマ・カトリックと区別して自分たちを定義する必要があっただけでなく、ルター派教会、英国国教会、スイスとオランダの改革派教会など、新興のプロテスタントグループも教義上の境界線を引いて、互いに区別する必要がありました。そして、スイス・ブレザレンや様々なアナバプテスト派のように、草の根レベルで教会が生まれました。

彼らは皆、ソラ・スクリプトゥラの教義と信仰による恵みによる救いを信奉していましたが、他の多くの聖書の問題をどう見るかについては異なっていました。

マルティン・ルターをはじめとする改革者たちが聖書をさまざまな方言に翻訳したとき、彼らは神の民のために大きな奉仕をしました。なぜなら、人々は自分たちの言語で聖書を読むことができるようになり、自分たちの霊的生活に個人的責任を持つことができるようになったからです。これは確かに良いことです。しかし、これにはマイナス面もありました。というのも、それはまた、さまざまな人々がある聖書の教義について矛盾した結論を出すことを意味し、そのような結論は分裂を引き起こす可能性があり、また実際に引き起こしたからです。これらの異なるグループはそれぞれ、自分たちの信仰を概説する信仰告白を作成しましたが、同時に他のプロテスタントグループと区別するために自分たち自身を定義しました。

このメッセージの冒頭でお話ししたように、私は成長する過程で、周りのクリスチャンの風景を見て、さまざまな教会を目にしました。その後、大学在学中に通った超教派の教会では、牧師が聖書の各巻を丁寧に体系的に説教し、本文中の重要な単語のギリシャ語の意味を掘り下げて説明し、その丁寧な聖書解説に畏敬の念を抱いたものでした。若かりし頃の熱意と理想主義に燃えていた私は、もし私たち全員がギリシャ語の原典に立ち返って正しく理解することができれば、教派の違いを消し去ることができると考えていました。しかしその後、他の教派の人々が、自分たちの強く主張する教義的な観点を聖書に基づいて独自に擁護していることに気づきました。バプテスト派と非バプテスト派、カルヴァン派とアルミニスト派、カリスマ派と非カリスマ派--これらのグループが同じ聖書を使っているだけでなく、聖書のある部分についての理解が異なっているにもかかわらず、神がこれらのさまざまな教会を用い、祝福していることに私は気づいたのです。20代半ばの頃、私はクリスチャンの間に見られるあらゆる分裂に落ち込むことが多かったのです。これらのグループはしばしば互いを厳しく批判し合い、私は絶望を感じました。しかし私は、神が異なる教派のクリスチャンたちを用い、祝福しておられることに気づいたのです。...というのも、彼らはいくつかの教義的な事柄については意見の相違があったものの、実は本質的な教義--この説教で先に概説した本質的な教義--については一致していたからです。これは私に希望を与え始めました。今にして思えば、私が耳にした多くの批判は厳しすぎたと思います。確かに、一部のクリスチャンは教義上のいくつかの点で間違いを犯しており、私たちは修正を求めるべきですが、ほとんどの場合、これらのクリスチャンはキリストにある誠実で忠実な兄弟姉妹であり、他のキリスト教グループをそれほど否定的に批判することなく、私たちが違いについて話し合うのを見たいと私は願っています。

クリスチャンの違いについて考えているとき、私を助けてくれた聖句をもうひとつ紹介させてください。それはローマ人への手紙 14 章です。その章では、使徒パウロがクリスチャンの間の習慣の違いについて論じています。パウロは、クリスチャンの間で、ある実践にどのように取り組むべきかについての確信の相違について述べています。-例えば、クリスチャンが市場で買った肉を食べてもいいのかとか、クリスチャンはユダヤ暦の特定の聖日を守るべきなのかといった問題です。今日は、なぜ一部のクリスチャンがこれらの習

慣のいくつかを問題だと考えたのかを説明する時間はありません。しかし、ローマ 14 章で提起された問題から原則を引き出したいと思います。この章の一部を読んでみましょう。

ローマ 14:3-8: 「食べる人は食べない人を侮ってはいけなし、食べない人も食べる人をさばいてはいけません。神がその人を受け入れてくださったからです。4 あなたはいったいだれなので、他人のしもべをさばくのですか。しもべが立つのも倒れるのも、その主人の心次第です。このしもべは立つのです。なぜなら、主には、彼を立たせることができるからです。5 ある日を、他の日に比べて、大事だと考える人もいますが、どの日も同じだと考える人もいます。それぞれ自分の心の中で確信を持ちなさい。6 日を守る人は、主のために守っています。食べる人は、主のために食べています。なぜなら、神に感謝しているからです。食べない人も、主のために食べないのであって、神に感謝しているのです。7 私たちの中でだれひとりとして、自分のために生きている者はなく、また自分のために死ぬ者もありません。8 もし生きるなら、主のために生き、もし死ぬなら、主のために死ぬのです。ですから、生きるにしても、死ぬにしても、私たちは主のものです。」

ローマ 14 章で論じられているのは、1 世紀の教会で物議を醸したある習慣にどう対応すべきかについての考え方の違いですが、私はこの章で概説されている原則を使って、いくつかの教義的な事柄についての意見の違いに対する今日の私たちの対応について論じたいと思います。二次的に重要な事柄に関する意見です。二次的重要事項の一例として、キリストの再臨の方法と時期に関するクリスチアンの見解の相違が挙げられています。

私がローマ人への手紙 14 章から得た教訓を、私が目にする教派の状況に当てはめてみると、異なる教派に属する兄弟姉妹は、自分たちの教義と実践が正しいものであると十分に確信しており、神の前に明確な良心をもってその信念を貫いているということです。そして、前にも言ったように、私は神が神学的観点の異なるクリスチアンを用い、祝福されるのを見てきました。4 節 - 私たちは異なる信念を持っている仲間のクリスチアンを裁いてはいけません。なぜなら、神がその人を裁かれる方だからです。5 節 - 各人が自分の心で、自分の良心で、十分に確信するように。7 節と 8 節 - 私たちは神のものであり、神の前では各自が責任を負っています。

この章は、神学的信念や教派の強調点が異なる兄弟姉妹に対して、私がある程度の寛容さを持つべきことを示しています。私たちは、本質的なこと、つまり先に概説した主要で核となる教義（聖書、三位一体、キリストの贖罪の犠牲など）については一致していなければなりません。先に述べたように、エホバの証人やモルモン教のように、正統派キリスト教の教義からかけ離れたグループもありますが、これらのグループは正しい教義を持っているとは認めません。しかし、福音主義プロテスタントの同胞である兄弟姉妹に対しては、教義や実践は二次的な問題であり、一次的な問題ではないのだから、ある程度の寛容さを示しましょう。私にとって、これこそが福音主義教会、そして教派を超えた教会の一員であることの意味です。

以前の説教で述べた小さなスローガンがあります。そして、私はそれを繰り返したいと思います。

本質においては一致。非本質的なものにおいては、自由。すべてのものにおいて、慈愛。

パート4：私たちの共通点

バプテスト派、長老派、ルーテル派、聖公会、メソジスト派、ペンテコステ派、カリスマ派、非カリスマ派、あるいはその他の教派の出身者であろうと、さまざまな背景や教派の伝統を持ちながらも、私たちを結びつけるものは実は多いです。これらの教派のうち保守的な系統に属するクリスチャンの多くは、先に概説した福音主義における重要な教義、すなわち聖書の權威、私たちの罪のための犠牲としてのキリストの十字架刑、個人的な回心の重要性、伝道の必要性を支持しています。もしあなたがこれらの重要な教義に同意するならば、私たちは他の教義的な事柄について相違があっても、クリスチャンとしての召命を全うするために共に交わり、腕を組んで働くことができます。

私はマタイによる福音書 28 章 19 節から 20 節にある大宣教命令を思い出すのが好きです：
「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、²⁰また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」
」この箇所に私たちの重要なすべきことがあります。：伝道、弟子訓練、そして教育です。これらは、キリスト教会が達成することに集中すべき主要な事柄であり、私たち OIC もこれらの優先事項を認識している。これが私たちの共通点です。

結論

1990 年代、ある牧師候補生が OIC を訪れていたとき、彼は私たちの教会役員会に興味深い質問をしてきました。彼はこう言ったのです。「これだけ多くの異なる教派の人たちが集まっているのに、どうやって教えればいいのですか？」と。教会役員会は彼に、「聖書を開いて、その箇所が何を教えているのか教えてください」と答えました。後に彼は、その答えを聞いて、「これこそ私が牧師になりたい教会だ！」と思ったと語りました。確かに、ここは私が 30 年間愛し、仕えてきた教会です。平易な聖書の教えと説明を、そして福音が忠実に宣べ伝えられ、人々が主から与えられた賜物を用いて奉仕したいと願う教会です。

今から半世紀前、大阪近郊に住むプロテスタントのクリスチャンたちが集まり、大阪インターナショナルチャーチを結成することになりました。私が初めて OIC に来たとき、さまざまな兄弟姉妹がおり、時には考え方が異なることもある活気ある教会を見つけました。しかし、私たちは互いに愛し合い、尊敬し合っていた。教派を超えた教会でありながら、しっかりとした福音的基盤を持つ教会、それが、私が大阪インターナショナルチャーチを愛してやまない理由です。その土台の上に立ち、教会の内外で積極的に奉仕し、互いに愛し合い、より多くの人々を神の国へと導きながら、未来に向かって前進していきましょう。